

中頼別に於ける日食觀測 (3)

小 山 秋 雄

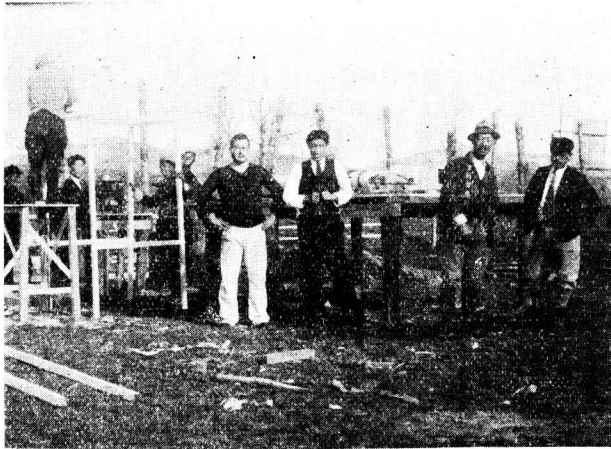
(N) 豫行演習その他 元來中頼別でユニホームをやる筈の堀井君が15日夜に到着したので、何にかユニホームの代りとなるものがないかと考へたが、有合せの口径20糎5米焦點の凹面鏡は暗すぎるし、又口径12糎1米20糎焦點の鏡はダイアゴナルがないし、遂に木邊君の9糎口径、F10の反射経緯儀のダイアゴナル及接眼部を改造し不充分ながらユニホームと同一フィルムパックを使ひ、使用してもらふ事にした。

豫行演習は15日に第1回やつたのをきつかけに、17日夜、18日には午前、午後、夜、19日に午前に1回やつた。18日の夜には流石に皆緊張してやり22時無理に終了とする。日食の時には随分暗くなると思つて夜の20時、21時頃に力を入れてやつたが、皆既の時は案外明るくて準備した懐中電燈も必要なくあつけなかつたが、お蔭で誰も大きな失敗なしにすましたのは喜ばしい。練習中ザルトリウスのレンズの前でシャッターを切る是枝君と取枠を變へる自分との聯絡を大分氣にして合圖の小旗を作つたりしたが、全く不必要だつた。取枠を入れ換へる時間も練習によつてさう速くなるものではなく、確實になるだけが主な點らしい。トリプレットの焦點を變更するのに十數秒掛つたのは考へものだつた。

(2) 當日まで

順序が逆になつたが小生の日誌より主要な事を抜記して行かう。

5月17日(日) 名寄近くで空明るくなり眼覺める。更に荒涼たる風色となる。音威子府にて乗換へた北見線の車がストロウの中で焚いてゐるのに驚く。小頼別に於て枝幸隊4名下車小生1人となる。前夜より出迎へに見えてゐた中頼別村各務助役を始め、小頼別の伊部鶴吉、植村龍助、飛渡近義、尾本兼次郎、管井鐵之助、田中柳藏の諸氏と挨拶をする。敏音知驛でも錢谷常太郎、鈴木互、島田卯太郎、代藏惠三郎、伊藤清、佐藤金藏、船橋重藏、宮田音吉、廣瀬藤七、杉本仁太郎の諸氏の出迎へを受ける。中頼別驛では村長佐藤友太郎、郵便局長八木源七郎、校長淺水辰藏、その他當地の日食協譚會の方々の盛大な歓迎を受け役場に赴く。驛前には小學生等の列。役場も植民地を直ちに思はず

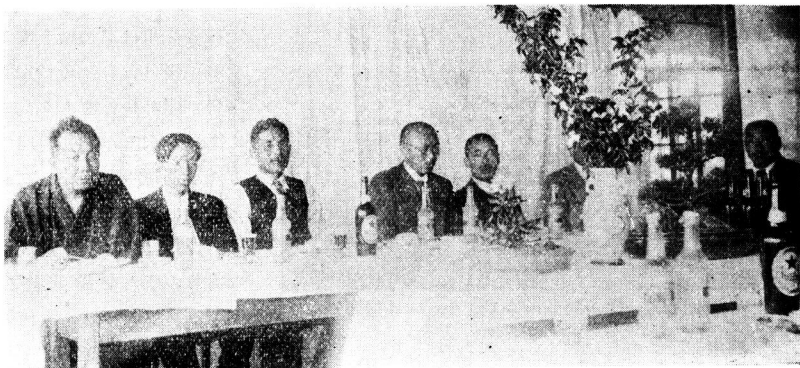
**工事中 (5月23日)**

右より中須, 山内, 今川, 有池の諸氏. 後姿は東氏

ラック建である。暫く休憩、學校へ行き宿舎、観測場を視る。食堂や暗室等實に準備至れり盡せりである。午後營林區署の暗室を拜見し、驛前の丸新旅館に落着き、協譚會の設營係伊藤柳作氏と明日よりの仕事の打合せする。又夕刻晝間送電の事で佐藤村長と相談、曇降り始め火鉢を囲んで震へ上る。汽車の疲れで8時就寢。

5月18日(月) 鴉の鳴聲に4時半眼覺める。午前観測地決定、村役場の中須さんに立會つて貫ひ山内さんの手でコンクリを始めるが泥濘の爲仕事捗らぬ。とても寒く遂に冬外套を着込む始末。詰前小學校の作法室を改造した観測隊宿舎に居を移す。内地では珍らしい白樺やエルクムの薪をどしどしストーヴにくべる。暖くてよいが惜い氣もする。夜校舎續きの淺水校長先生のお宅を訪ねる。終日青空少しも見えず、空一面に灰色の雲低く垂れ、近くの丘の新芽がわづかに春らしい感じを與へる。

5月19日(火) 観測器械到着し、村のラヂオ屋さん、自轉車屋さん、大工の息さんに



5月29日の中食 左より東京天文臺の橋元、奥田、小野の諸氏、淺水校長、八木郵便局長、右端は蔦井氏

手傳つてもらひ荷ほどき及器械の假組立を終へる。別状なし。食事は當分米谷さんより運んで来て貰ふ事にする。

5月20日(水) 朝驛より電話掛り山本先生當地に着いてゐられる由にて大慌て、早速八木局長、各務助役にも来て貰ひ、役場にて休憩。自動車にて學校へ行き宿舍、観測場を案内する。中村覺君がお伴である。國旗と満月の餵頭をいただく。14時まへ先生一行は濱頓別より枝幸へ向はれた。夜校長先生、今川先生、亭基氏來訪、シロスタート動かして見せる。よく動く。

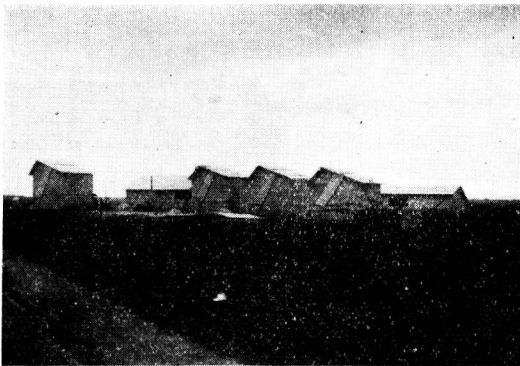
5月21日(木) 雨が降りづめなので土臺工事は中止、完成した暗室に器具運んだり教員室へ出掛けて行つたり。京都深尾老より宇治茶來る。

5月22日(金) 朝より薄日差しよい日和となつた。着頓來初めてだ。土臺工事は大工東さんの手で続けられる。校庭の東手鐵道に面し「皆既日食観測地」の大きな看板大騒ぎして立つたが、場所不適當なので他所へ移すらしい!! 併し早速自動車に乗つて寫眞撮りに來る。はじめて夜星を當地で見ると。北極星大分高く、さそり星座は極く地平線。校長先生夜來られ話長くなる。

5月23日(土) 今朝も寒さで眼4時に開く。室内攝氏5度、室外1度。枝幸の観測隊と電話する。當地は昨夕よかつたが、枝幸はガスが來たとか。確に當地の方天氣よい。夕方東京の稻村賢三氏來頓、手傳つて貰ふ事になる。夜シロスタートの Setting に掛る。とても寒い。

5月25日(月) 今日で全部工事終る。天氣がよいと日中は少し暑い位で、帽子も風で飛ぶので冠らずに色々顔が焼ける。夜三日目でテストする。見物に學校の先生方數名來られる。1日よく働き大分疲れる。

5月26日(火) 小學校の16ミリの新購入の 1-KW 100 V の直流發電器校門の傍に据はる。シロスタートの電氣の心配はなくなつたが、肝心の16ミリが廻るかどうかで校長先生はじめ頭を悩ます。午後日食のため特別の講習が開かれ各地より當地に集つて來てゐる郵便局の方々望遠鏡の前で紀念寫眞を撮る。



女滿別 關口博士観測所全景 (6月5日撮影)

5月27日(水) 木邊氏村の方々の盛んな歡迎裡に9時リュクサックをさげて着頓。枝幸郵便局の方に頼んで木邊君のブラジルコロヒ1その他の土産どつさり枝幸の隊にとどけて貰ふ。夜月で木邊、稻村君とでテスト。校長さんの奥さん、娘さん見える。快晴となり何にか観測せずに、日食準備のテストだけですますには惜しい様な澄んだ空

だ。11時半就寝。

5月28日(木) シーロスタートの平面鏡の鍍銀を木邊君にやつてもらふ。うすいが兎に角着く。午後役場より驛へ廻り驛長橋野喜一氏に會ひ蓄電池の到着する日をたづねる。



観測場及宿舎に充てられた中頼別
小学校全景 一(6月11日寫)一

驛には日食記念スタンプ2種置いてある。18時東京天文臺の橋元昌矣、奥田豊三、小野龜吉の3氏到着。直ちに観測地を小生達の場所の直ぐ横に決められる。

5月29日(金) 朝より東京天文臺の基礎コンクリ工事開始。荷物續々到着。望遠鏡の格納庫まで含まれてゐるから仲々大變な準備だつたらしい。正午食堂開きで東京、花山の計6人が村の主だつた方々と會食する。東

京隊も今日から宿舎に充てられた小生達の隣りの教室に入り愈々賑かとなつた。蓄電池8個到着。稚内発電所の田澤勇氏附添つて來られる。試運轉の結果甚だ良好。夜アクトウルス星で焦點決定。東京隊も燈火を點けて何にかやつてゐた。翌朝になつて此れは方位角を決定されてゐたと解る。此の日暑く驟雨來り遠雷轟く。木邊君が裏引液をこぼしたのも此の日。

5月30日(土) 雨になつたので準備室で3人共大工仕事をやる。仲々上手で中には臺にしてゐた學童の椅子に一寸餘りの見事な切きづを入れた人もある。新聞記事に驚く。夕食後、今川、下平先生方と宿舎で雑談。それから教員室で16ミリで九州地方の映畫を校長先生、有澤先生、新宮木工場の電氣係の人達と見る。北海道の北の端へ來て此んな南の國の映畫を見ようとは夢にも思はなかつた。(つゞく)

京都・京星會觀望會開催 (一般公開)

(天文の夕) 天體觀望, 參考圖書展覽, 天文解説
日 時 昭和11年 10月17日 (土曜日) 夕より
場 所 京都市 二條公園 (京都放送局南)

京都市中に一夜、民衆天文臺の出現!! 爽涼の秋、天文シーズンを迎へ、京星會が從來會員の參集と指導を目標に隔月毎に開催してゐた觀望會を、今回、廣く一般民衆の天文知識普及のために、上記の通り、大々的に催す事になつた。會員所有10種・15種級の數臺の望遠鏡を動員し、市の中央部二條公園に觀望陣を布き、仲秋17日の月を器械を通じて觀賞し、又木星其他の觀望をなし、更に參考圖書の展覽、天文解説プリントの配布を行ひ、天文臺先生、天文協會委員によつて望遠鏡の説明、太陽系恒星界の解説等がなされる。會員、同好者、一般人士の振つて參會を望む。